

加工用中輪ギクの生産拡大

対象者 JA こうか花卉部会員

【普及活動のねらい】

県では仏花の組花素材として草丈 60 cm 前後で出荷する「加工用中輪ギク」を花き推進品目と位置づけて生産拡大を進めています。「加工用中輪ギク」は、市場と組花加工業者に高く評価され、増産の要望があります。作付け推進の結果、平成 29 年度に 2 戸でスタートした甲賀地域での生産者は、令和元年度には 7 戸に増加しました。しかし、市場からの出荷要請量（全県で 50 万本）には、まだまだ生産が追いついていません。

この出荷要請に応じて生産拡大を進めるため、これまでの 8 月盆前出荷だけでなく、新たに 12 月上旬出荷を加えた年 2 作体系を提案し、その確立に向けた技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

新たな作型の提案に向け、市場担当者と出荷時期の調整を行い、主要産地の端境期にあたる 12 月上旬出荷をターゲットに絞り、作付けを推進しました。

12 月上旬出荷では、切り花品質の確保においてポイントとなる 3 作業（再電照、矮化处理、収穫）の作業適期幅が短く、そのタイミングの見極めが難しいため、重点的に技術支援を行いました。

まず、上位の葉が極端に小さくなる症状を防止するため、キクの花芽を顕微鏡で確認し、再電照を実施しました。次に、矮化处理は花蕾下の茎が徒長しないよう、再電照終了時と発蕾時、摘蕾時の 3 回実施しました。さらに、収穫前に、市場担当者と連絡を取り、出荷先（実需）に対応した規格（切り前と長さ、脱葉）を確認しました。



現地での研修会



12 月上旬出荷の中輪ギク

【普及活動の成果】

新たな作型である 12 月上旬出荷の導入により、甲賀地域で 8 月盆前出荷の 4 万本に加え、新たに 1 万本の増産となりました。切り花品質の確保に重要な 3 作業（再電照、矮化处理、収穫）は、タイミングの見極め支援により、各生産者とも適期に実施することができました。これにより、出荷された切り花に対する市場の評価は非常に高く、8 月盆前出荷を上回る価格で販売できました。

また、市場との情報交換の結果、11 月中下旬も品薄となる傾向が強まるとの情報が得られたことから、この時期を狙った無加温での栽培体系も検討し、年 2 作体系の定着と、さらなる生産拡大に向け支援を継続します。